



小魚たくさん!

かいぼり後の 石神井池

しゃくじい 石神井池 水辺 しんぶん

No.2

2021年12月

登録番号 (3) 2

発行
東京都東部公園緑地事務所
<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/toubuk/index.html>

編集
認定NPO法人 生態工房
<https://www.eco-works.gr.jp/>



定置網の回収作業の様子



今年生まれたナマス (2021年7月)



スジエビ

2021年1月から3月にかいぼりを行った石神井池では、4月から毎月1回モニタリングを行い、定置網に入った魚類・エビ類の種類と数を記録してかいぼり後の状況を把握しています。かいぼり後の石神井池では、春にたくさんの子魚の稚魚が確認されました。図はモニタリング結果です。かいぼり後の2021年に、ギンブナ、モツゴ、スジエビなどの在来種が増加しているのがわかります。外来魚のオオクチバスとブルーギルを駆除したことで、在来種の仔稚魚やエビ類が生き残りやすくなったと考えられます。

在来魚等の増加は、水鳥にもよい影響をもたらしています。小魚やエビを捕食するカイツブリは、近年の営巣数は2つがいで推移していましたが、2021年は5つがいに増加。石神井池のあちらこちらでカイツブリ親子の姿を見ることができました。(裏面に続く)

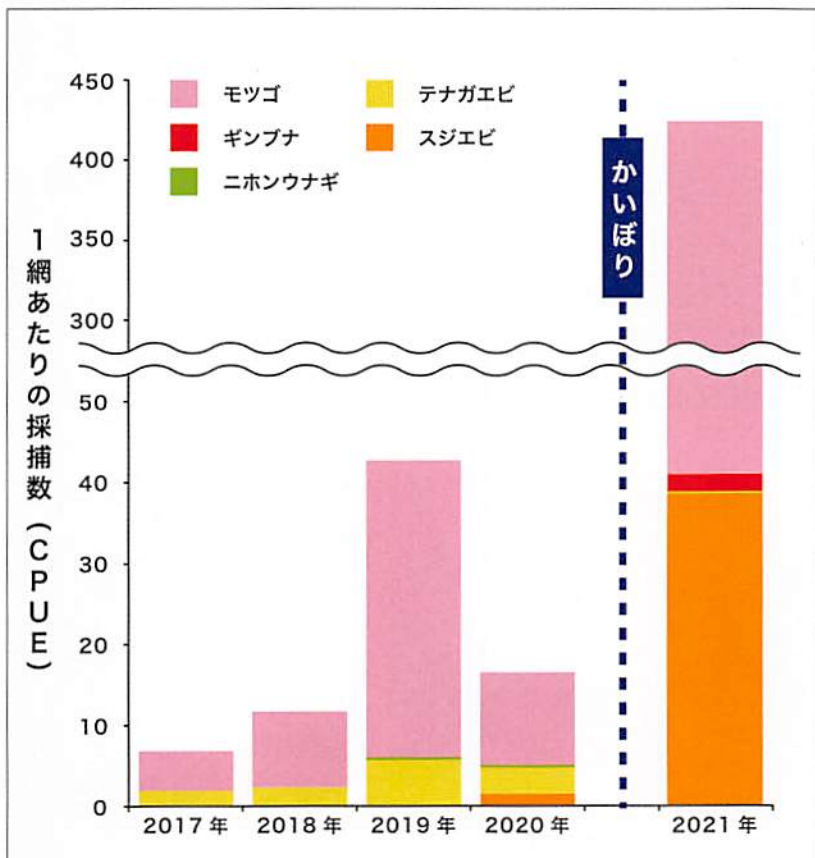


図. 石神井池での定置網3枚分の年別採捕数
秋季に調査を実施。2020年までの調査は東京都公園協会による。



カイツブリの親子 (2021年6月)



石神井池で確認したイトモ類 (2021年5月)



今年生まれのオオクチバス (2021年7月)

池水の透明度は、池底がくつきり見えるまでによくなり、5月にはイトモ類の生育を確認しました。沈水植物(茎葉が水中にある水草)は水質の悪化や外来魚のコイなどの影響を受けやすく、都内の池では少なくなっています。石神井池で在来種の沈水植物の発芽を確認したのは数十年ぶりのことです。

しかし水温が上昇した6月頃から植物プランクトンが増加し、透明度が低下しました。2021年11月現在、池の水はかいぼり前よりはきれいですが、池底までは見通せなくなっています。

石神井池の自然はかいぼりによって改善はされましたが、すべての課題を解決できたわけではありません。駆除しきれなかったオオクチバスとブルーギルも繁殖していますし、釣り魚のコイやタイリクバラタナゴも新たに見つかっています。外来魚が再び増加していくことのないように、引き続き対策していく必要があります。

ピックアップ! News

秋の恒例! 三宝寺池自然誌学校を開催

2021年10月23日・24日の2日間、自然学習イベント『三宝寺池自然誌学校』が開催されました(主催:東京都公園協会)。来場者は、展示や活動団体メンバーらの解説を通して、園内の自然に関する取組について理解を深めました。東京都もブース出展し、石神井池かいぼりの成果について展示解説しました。

出展内容

- 写真展「石神井の四季」
- アメリカザリガニ回収大作戦
- 映像と写真で紹介する「花の中の島」
- 公園で働くひと展
- 三宝寺池水族館
- 池の水はどこから来るの?
- 石神井池のかいぼり

参加者募集!



石神井池保全作業



水辺に蔓延る外来種・キショウブなどを抜き取って、在来種が生育できる水辺環境にしましょう!



開催日: 2/23 (水) 荒天中止
 時間: 10:00~12:00 (9:30 から受付開始)
 集合: 石神井池花壇(右岸下流)。集合時間前、ボート乗り場付近に誘導看板を設置。
 対象: 小学生以上(作業内容は高学年以上向き)。保険代1名につき30円
 定員: 30名(申込不要、当日先着順)
 持ち物・服装: 作業手袋(湿地なのでゴム手袋がオススメ)、長靴。(あれば)鎌。

詳細は園内ポスターなどもご確認ください!



写真展「石神井の四季」



石神井池のかいぼり



水槽で展示したクロダハゼ



アメリカザリガニ回収大作戦

